

横浜医療情報専門学校

2019 年度学校関係者評価会議事録

日時	2020年8月27日(木) 15:00~16:15	
場所	横浜医療情報専門学校 3階 セミナー室	
参加者	学校関係者評価委員	中村 ふじ (神奈川県総合教育センター 人材育成課 教育指導員)
		二宮 克行 様 (医療法人社団 顕鐘会 神戸百年記念病院 理事・事務長)
		真野 誠 (日本電気株式会社 医療ソリューション事業部 シニアマネージャー)
		奈良谷 歩 様 (保護者代表)
	本校教職員	小松 加代子 (教務部 部長)
		鈴木 和江 (教務部 課長:医療事務科 学科まとめ)
		平塚 智文 (教務部 課長補佐:医療IT科 学科まとめ)
		寛 保夫 (教務部 課長補佐:医療事務科2年生まとめ)
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・当日説明用スライド資料 ・2020年度 夏のイベント動画 	

<議論の要旨>

1. 教務部長挨拶（小松）

- ・コロナ禍ではあるが、本校は学生に1人1台ノート PC 貸与という環境があり、ご家庭のみなさまのご協力のもと、GW明けよりオンラインによる授業を開始することができた。学びを止めない、コロナに負けない学校を目指して、現状も考えながら新しい教育手法を確立していく必要がある。評価委員の方々に、専門学校教育を理解する場として頂くと共に、同課程設置にあたって外部評価が重視されている事も踏まえ、委員の皆様のお立場から様々なご意見を頂きたい。

2. 2019年度総括（自己点検評価報告）

学生アンケート結果（小松）

- ・文科省ガイドラインに沿って自己点検評価を実施した。各項目において、目標は概ね達成することができている。改善点としては、教育活動(3-14)に記載の教員のスキル向上機会を増やす事である。専門学校の良さとしてカリキュラム更新が比較的容易にできる反面、授業を展開する教員も最新のトレンドを把握し授業展開することが求められる。そのため、教員自身が学ぶ機会を増やすことが重要である。今後は、卒業生による最新トレンドのスキルアップ講座も企画している。特に、教育活動については、外部関係者からのご意見として卒業生にヒアリングを重ね外部評価も得ることができ、今後も継続していく予定である。

2019年度 総括データ（小松）

- ・退学率については、目標を達成できており過去5年で最も低い値となっている。また、医療情報技師の合格率について、卒業年次には全国平均(30%)を上回る58.8%と高い合格率を出すことができた。医療IT科においては、卒業生の初任給が大卒初任給を上回り、大卒と比べても技術・スキル共に身についた上で卒業できている証となっている。

在校生対象向け調査より（小松）

- ・学内アンケートより、本校の学生は学校生活全体への積極性については70.2%が「積極的に取り組んでいる」と回答、また、通学する前と比べての成長実感については78.5%が成長を実感していると回答。更に、本校を他者に薦めたいかという設問については、60.6%が薦めたいと回答し高い評価を得る事が出来た。「通っている学校に対する満足度」の設問では、複数の選択肢の中で、本校がボランティア参加を積極的に推奨しているため、「外部とのコミュニケーションの機会が多い」が上位に挙がっている。具体的には、テロ対策訓練（日産スタジアム）、しんつる祭り（菊名ドライビングスクール）、横浜ランドマークタワースカイライミング誘導ボランティア（神奈川県）などの実績がある。

2. 意見交換

- ・貴校独自の取り組みやトレンドを取り入れ、在校生の評価をしてもらうことは大切なことであるが、過去5年の卒業生に授業で役立った事をヒアリングし、学校の目標に対して自分の進路に相関がある項目を調べてみてはどうか。例えば、出席率の良い学生やクラブ・サークルに積極的な学生は希望の進路に就くことが出来ているといった相関があれば目標値を立てやすい。また、長年における教育の中で、成果が高いものについては変えない事も重要である。対面授業とリモート授業の教育をする上で必要なアセスメント項目を見つけるにも役に立つのではないかと。（中村）

→毎年 PROG テストを実施しコンピテンシーの値を重視しているが、希望の進路に進めた学生の相関については継続的にデータ分析を必要があると考えている。(小松)

- ・アンケート結果の各項目のn数が明確である必要がある。学校の満足度が高いところでの学生と教員の一体感が大切だと感じる。貴校は他校との差別化で IT のブランド力を前面に出してもよいと考える。コロナ禍における医療機関の現場と日常生活には温度差がある。先ほど、卒業生から在校生に向けて医療機関の仕事内容やコロナ対応を話す機会を設けたという話があったが、とても良い取り組みである。資格試験が軒並み中止になった現状であるが、代わりに受ける試験やこれから受験していく資格試験、就職状況についても教えていただきたい。(二宮)

→n数については、全校学生の8～9割が回答している。資格試験については、11月に医療秘書技能検定試験を受験予定である。その他の医療事務の検定も検討している。(小松)

→就職活動においてはGW明けより活動が始まり、現状約半数が内定している。例年、10月以降はクリニック等の求人も増えて来るが、コロナ禍において例年通りの求人数が確保できるかは不明である。学校から求職の問い合わせをしてみるのも一案あると思われる、就職指導部と連携しすすめていく。(筧)

→求人については医療機関も混乱している状況なので、学校から問い合わせる事は効果的である。(二宮)

- ・医療IT科の初任給が非常に高いので驚いている。さらにこの時代に合った内容を教えることができればよいのではないかと。また在宅でもどのような診療サービスを受けられるのかを考えていく時代に入っている。同様に、企業でも新卒とのコミュニケーションを在宅からどのように図っていけばよいのかが大きな課題となっている。(真野)

→本校でも、オンライン上で学生とのコミュニケーションを図る事には苦慮している。特に新入生においては教員との距離感をどうやって近づけていくのかが大きな課題である。夏休みに入る時点でオンラインによる面談を行ってはいるものの、対面でのコミュニケーションには及ばず、夏休み明けから対面授業の再開を検討している。(鈴木)

- ・娘は、今後の医療のIT化を考え新しい取り組みが行われていく医療IT科を選んだ。コロナ禍において、オンライン授業が行われている事に関しては感謝している。一方で、自宅で受講していることからメリハリのない生活であると感じている。自分がどこまで理解できているのか把握できない事もあるようなので、今後フォローをお願いしたい。いろいろな問題があると思うが、一番大切なのは友達作りや学生と先生とのコミュニケーションだと思う。(奈良谷)

→貴重なご意見に感謝する。学生の健康・安全を考え、また、登校時の安全を鑑み少しずつ登校の機会を増やす事で友達作りの場を提供していきたいと考えている。また、学生の皆さんの不安な気持ちを少しでも払拭できるよう、悩み相談などの窓口も必要と考えている。(小松)

→医療IT科では技術的な勉強が必要である。特に2年生においてはプログラミングの授業もあり、考える授業が大切で目に見えない教育も必要になってきている。今後も引き続き、保護者様からのご意見をいただければ幸いです。(平塚)

委員の皆様から頂いた貴重なご意見を、本日の出席者以外の教務部メンバーにもフィードバックし、より良い学校運営を行うために活かしていきたいと思っております。本日はお忙しい中ありがとうございました。(小松) 以上